

御食国若狭おばま
北陸新幹線敦賀開業アクションプラン

2019-2023



小 浜 市



目次

第1章 全体概要	…1
1 策定の背景と目的	…4
2 計画期間	…5
3 計画の位置づけ	…5
4 エリア設定	…6
5 開業時の見通し	…7
6 計画目標	…8
7 計画の見直し	…9
8 プラン後の取組み	…9
第2章 項目別アクションプラン	…11
1 アクションプランの方向性	…12
2 取組み系統図	…13
3 個別取組み	…14
第3章 エリア別アクションプラン	…29
1 エリア設定の目的	…30
2 4駅連携エリア	…32
3 体験観光エリア	…34
4 日本遺産エリア	…36
5 嶺南エリア	…38

第1章

全体概要

- 1 策定の背景と目的
- 2 計画期間
- 3 計画の位置づけ
- 4 エリア設定
- 5 開業時の見通し
- 6 計画目標
- 7 計画の見直し
- 8 プラン後の取組み



1 策定の背景と目的

本市では、「御食国若狭と鯖街道」ならびに「北前船寄港地・船主集落」の日本遺産W認定をはじめ、鯖養殖の事業促進や食のまちづくりの新たな展開など、観光を軸とした交流人口ならびに観光消費の拡大による地域の産業振興と発展および地域内経済の好循環をめざした取組みを進めてきました。

2022年度末に予定している北陸新幹線敦賀開業は、嶺南地域が高速交通網に組み込まれ、首都圏や北信越地域からの交流人口の拡大が期待できるとともに、首都圏へのアクセス向上など市民の利便性向上も実現します。

こうした北陸新幹線敦賀開業の効果を最大限に引き出すためには、新たに首都圏・北信越地域ならびにインバウンドを誘客のメインターゲットとして加え、本市が観光客に「観光の目的地」として選ばれることが必要です。

そのためには、これまで取り組んできた京都とのつながりを生かし、「食」や「日本遺産」といった“小浜ならではの”地域資源を研ぎあげ、相互に連携させた体験型の周遊観光のコンテンツの創造に取り組むとともに、ターゲットとなるエリアに向けた直接的な情報発信を行うと同時に、京都のブランド力を生かした情報発信に取り組むことが重要となります。

また、交流人口の拡大に向けた市内の受入体制の整備や二次交通の整備、交通アクセスの向上など、観光客の利便性向上ならびに交通利便性の向上に取り組む必要があります。

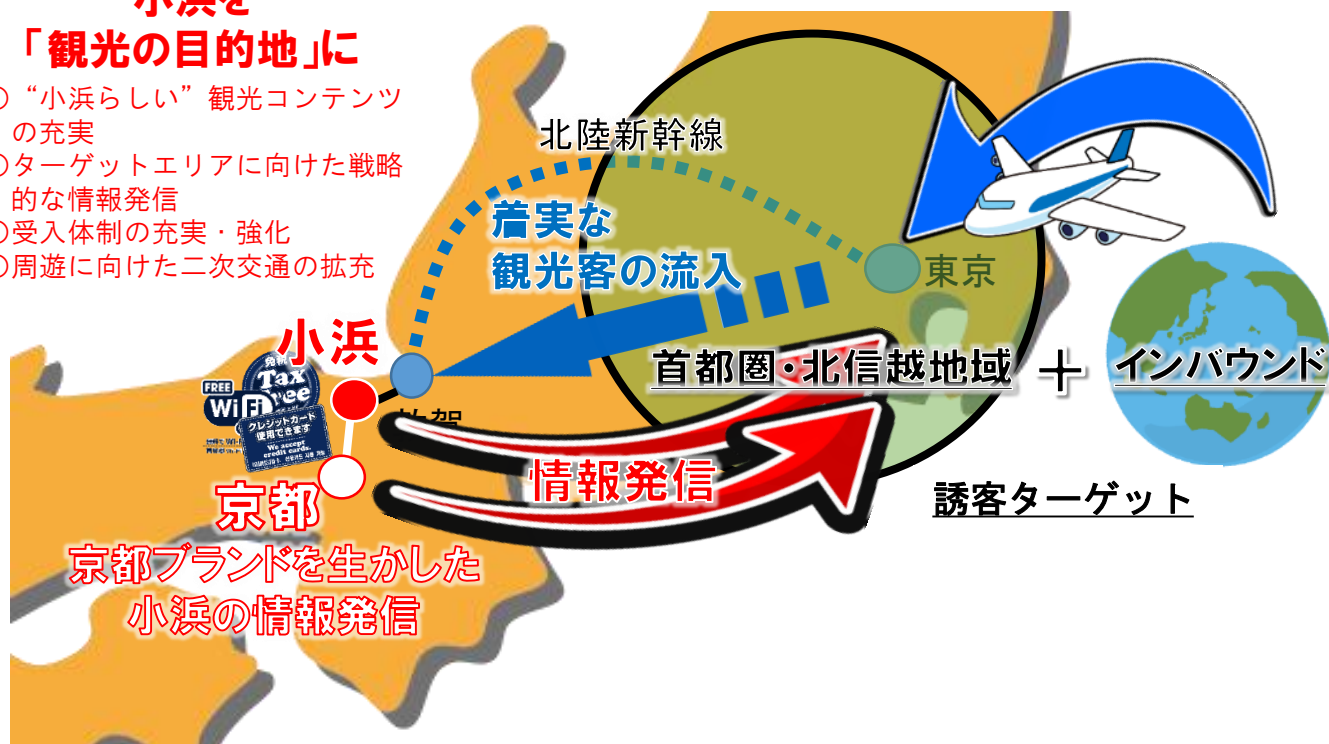
こうしたことから、本市においては、北陸新幹線敦賀開業の好機を逃さないよう全庁的な体制で迎えるため、実施すべき戦略的かつ具体的な施策の実施に向け取りまとめた行動計画として「御食国若狭おばま 北陸新幹線敦賀開業アクションプラン」を策定します。

この北陸新幹線敦賀開業に向け、総力を挙げて取り組むことにより、先の小浜開業への取組みにつなげていきたいと考えています。

【イメージ】

小浜を 「観光の目的地」に

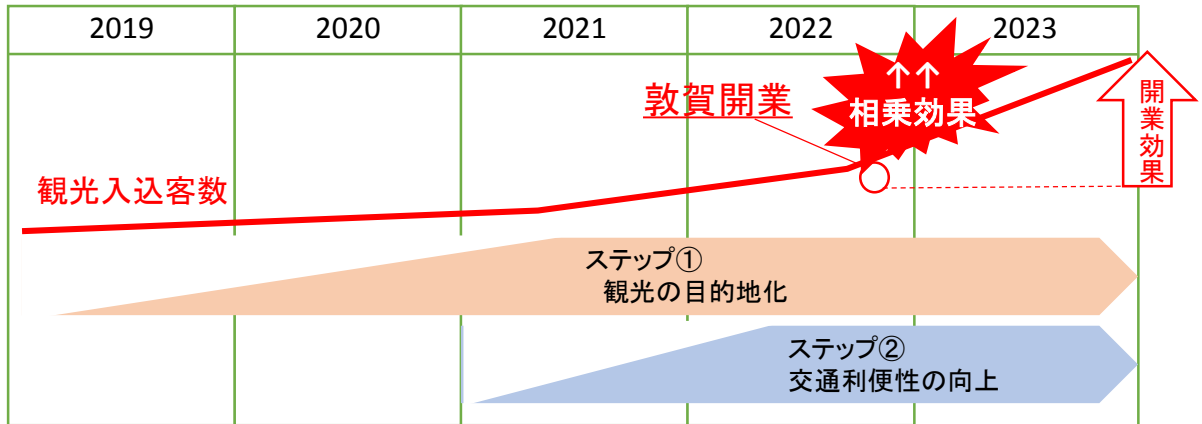
- “小浜らしい”観光コンテンツの充実
- ターゲットエリアに向けた戦略的な情報発信
- 受入体制の充実・強化
- 周遊に向けた二次交通の拡充





2 計画期間

本アクションプランの計画期間は、2019年度から2023年度までの5年間とします。



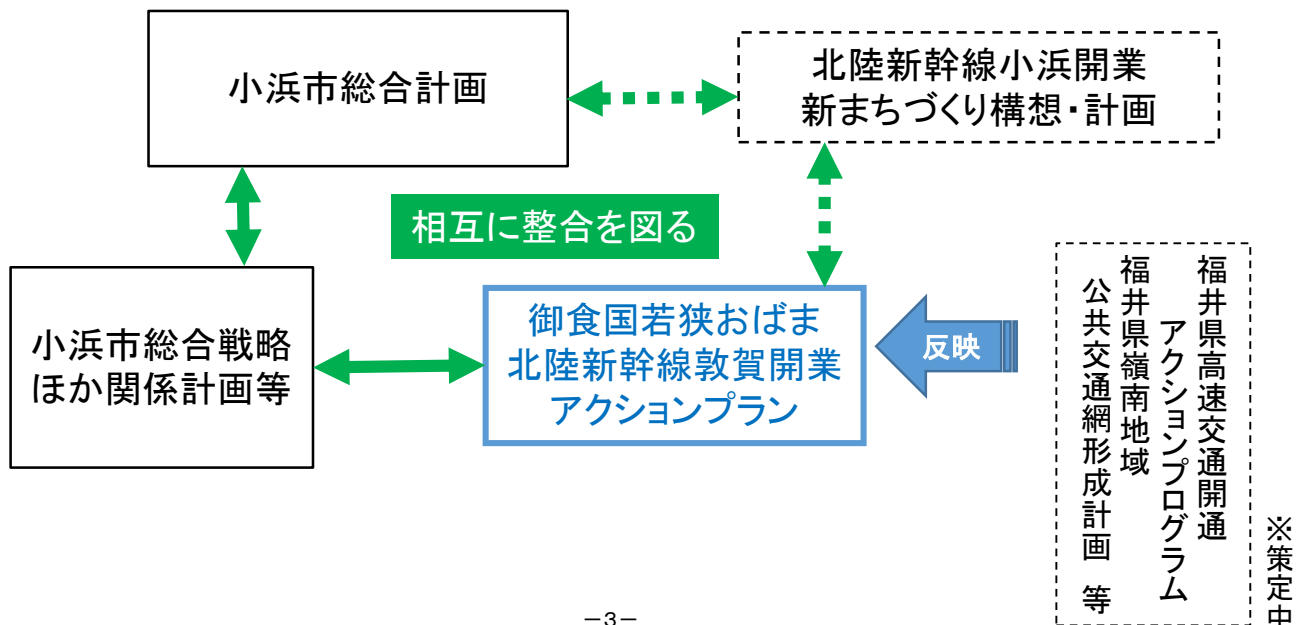
まず、新たに接続されるエリア（首都圏・北信越地域ならびにインバウンド）をターゲットとして、「観光の目的地化」に向けた魅力の向上、情報発信、受入体制整備、基盤整備に取り組めます。

また、本市へのアクセス向上、二次交通の拡充など、交通利便性の向上について、時期を見据えて適切に取り組めます。

3 計画の位置づけ

本アクションプランは、『小浜市総合計画』ならびに『まち・ひと・しごと創生 小浜市総合戦略』など関連諸計画や県等の施策との連携を図りながら、観光を軸とした交流人口の拡大に向けて取り組めます。

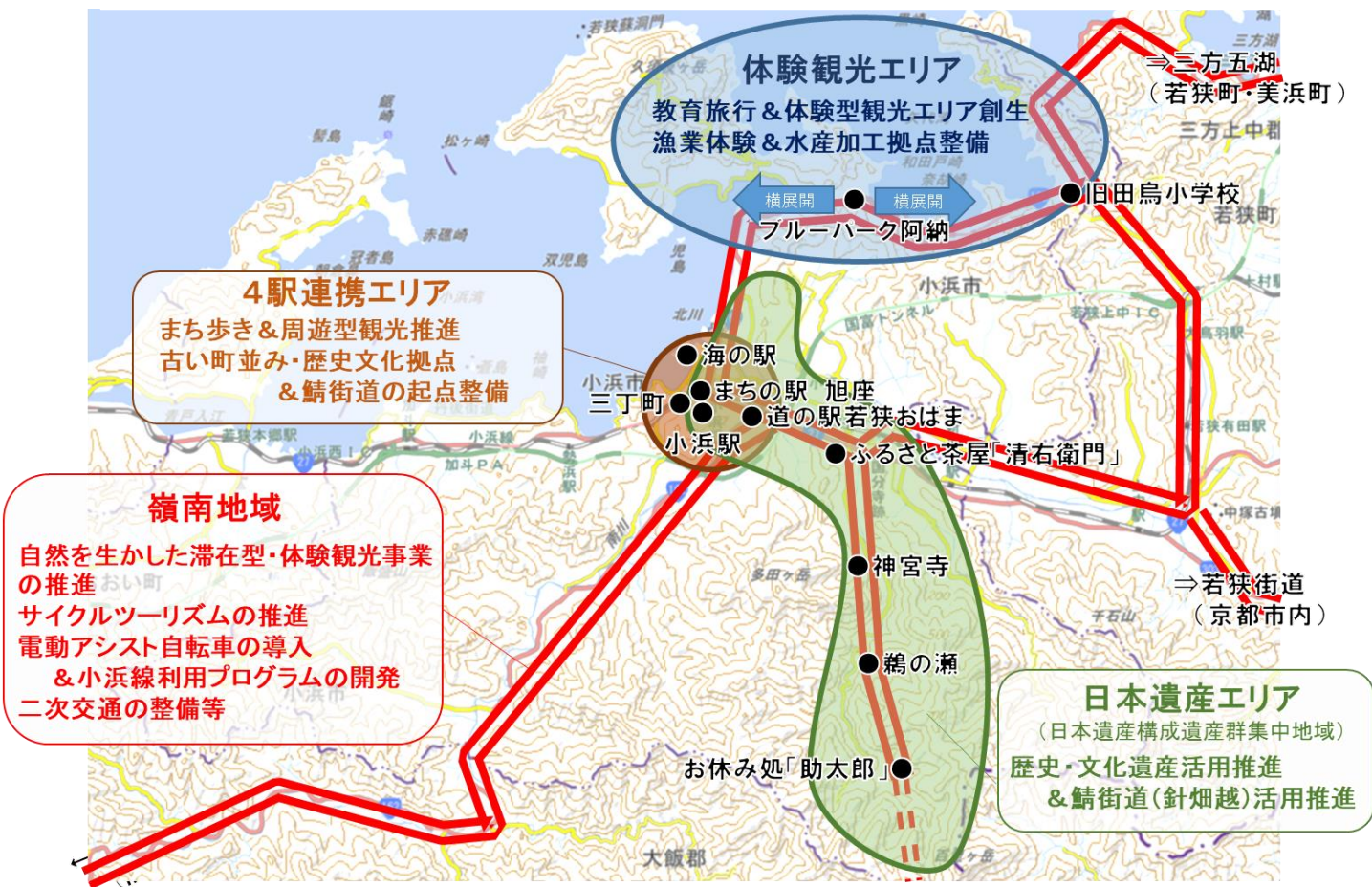
なお、二次交通の充実強化に関する内容については、現在策定中の福井県嶺南地域公共交通網形成計画等と関連が深いため、当該計画の内容に応じた改定を行うこととします。





4 エリア設定

本アクションプランの区域は、下図のとおり重点エリアを設定し、推進することとします。



【取組の方向性】

敦賀開業効果を最大限享受するため、下記の取組みを推進する

- ①小浜市に“4駅連携エリア”、“体験観光エリア”、“日本遺産エリア”の3つの推進エリアを設定
- ②嶺南6市町を連携させる連携エリアとして“嶺南地域”を設定
- ③各エリアにおいて、魅力創出、情報発信、受入体制整備等に取り組む、観光の「目的地化」を推進
- ④小浜～敦賀間、嶺南地域間、各推進エリア間など、それぞれのエリアを結ぶ二次交通の整備など、交通利便性の向上を目指す

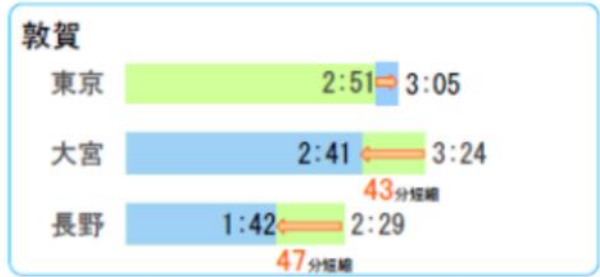


5 開業時の見通し

【時間短縮の見通し】

北陸新幹線敦賀開業により、関東甲信越から敦賀駅まで最大で47分の時間短縮効果が見込まれています。

また、東京においては時間短縮効果はないものの、乗り換えがないことから、交通利便性は飛躍的に向上すると見込まれます。



出典：福井県新幹線建設推進課ホームページより

【交流人口の見通し】

敦賀開業による時間短縮効果や交通利便性の向上を踏まえ、北陸新幹線小浜開業に向けた「新まちづくり構想」策定にかかるデータをもとに、交流人口拡大予測のベースとなる「観光目的の本市来訪者数」の簡易推計を行いました。

推計する対象エリアを下記により設定した

対象エリア	
関東地方	東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、群馬、栃木
北陸地方	石川、富山

出典：小浜市「平成29年観光入込客統計「県外客発地別内訳」」より
なお、甲信越エリアからの流入実績がほぼないため、推計から除外

①これまでの小浜市への観光客の来訪実態

関東地方および北陸地方から小浜市への入込客数 **188,300人/年(2017年)**

②福井県嶺南地域への観光目的来訪者が鉄道を利用する割合 ※1

関東地方および北陸地方から嶺南地域 **11.1%(2010年)** **約21,000人**

③敦賀開業時における交流人口の増加見通し ※2

敦賀駅乗降客数 **1.26倍以上増加** **約26,500人**

鉄道利用による交流人口が1.5倍以上に増加(三大都市圏+北陸、北陸+北陸)
出典：全国幹線旅客純流動調査(12)をもとに推計



出典：福井県北陸新幹線建設促進同盟会パンフレットより

**敦賀開業により交流人口
約5,500人/年増加**

※現状値をもととした
施策効果を加えない数値

※1 純流動調査同一県内からの流動量は調査対象外
代表交通機関は、複数の交通機関を乗り継いだ場合に『航空、鉄道、幹線旅客船、幹線バス、乗用車等』の優先順位で定義される利用交通機関の区分のこと。
出典：国土交通省「第5回(2010年)全国幹線旅客純流動調査」より

※2 県試算をもとに敦賀市で独自試算したものを流用
出典：敦賀市「北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画—敦賀駅利用者数予測—」より



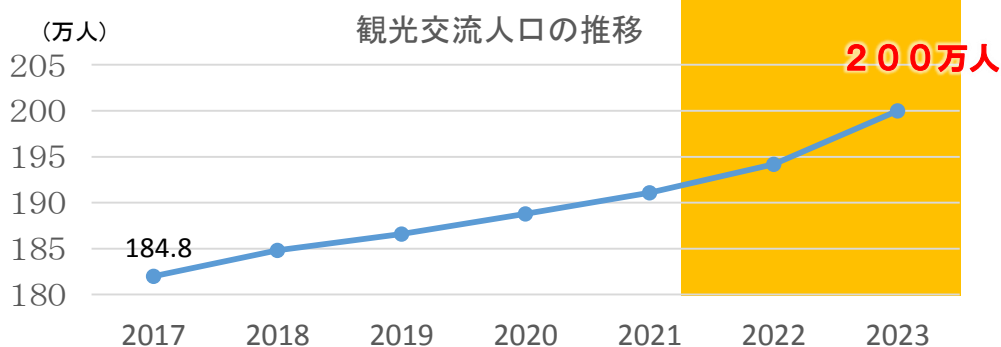
6 計画目標

本アクションプランについて、計画期間終了となる2023年度に向け、前述の簡易推計をもとに、甲信越エリアからの流入やインバウンド増加などの施策効果を踏まえ、次のとおり目標を定めます。

【数値目標】

①2023年度の観光交流人口 200万人以上を達成

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
観光交流人口 (万人)	184.8	186.6	188.8	191.1	194.2	200.0

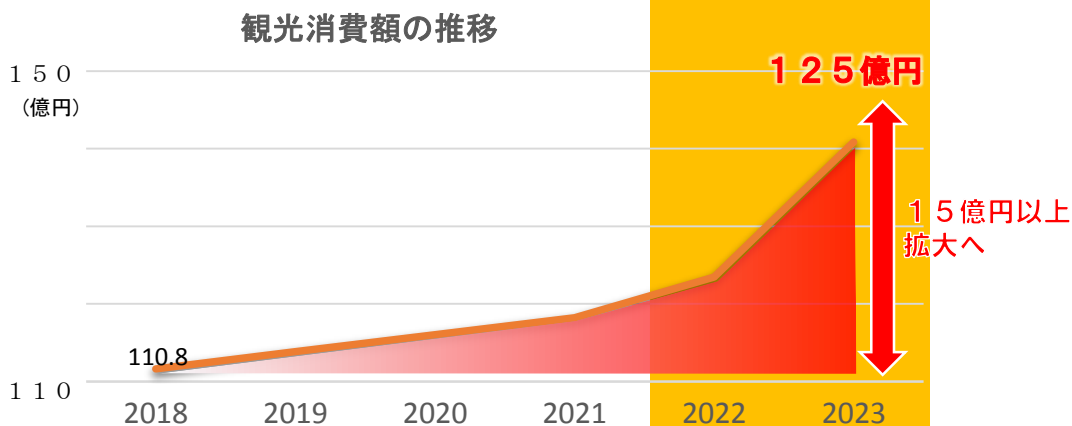


設定根拠：2018年度 観光交流人口184.8万人

政策効果として2018年度以降トピックにあわせ1.0～1.5%の増加を想定
2022年度以降は開業効果を踏まえ最大1.5%の増加を想定

②5か年で15億円以上の観光消費額拡大を目指す

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
観光消費額 (億円)	110.8	111.9	113.0	114.1	116.7	125.4



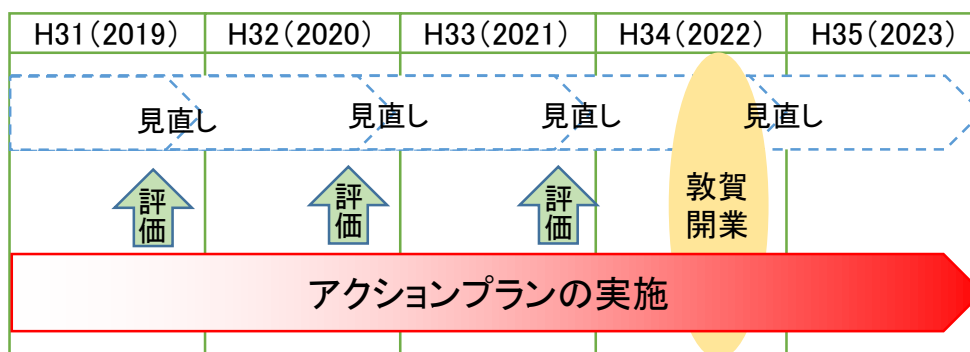
設定根拠：2018年度 観光消費額110.8億円（基礎値）

これまでの観光消費額の推移から客層の構成比（県内・県外、日帰り・宿泊の各構成）を算出
政策効果分については、各構成比別に統計で使用している各客単価を乗じて算出
2022年からの開業効果分は、全数「県外・宿泊」と仮定



7 計画の見直し

本アクションプランについては、2020年度以降、毎年度末に市内において施策の取組みの評価を行い、改善点を議論し、次年度当初予算に反映させるなど、必要に応じた見直しによる施策効果の向上を目指します。



8 プラン後の取組み

本アクションプランでは、北陸新幹線敦賀開業効果として、これまでの施策に加え、関東甲信越エリアなど新たな観光交流人口の増加に向けた取組みを中心に策定しています。

この敦賀開業の後には、小浜・京都ルートによる全線開業が控えていることから、さらなる交流人口拡大はもちろん、京都や大阪などの関西エリアとの時間距離が大幅に短縮することによる企業誘致や創業支援、住宅施策、子育て施策といった定住人口の増加を狙った施策についても取組む必要があります。

そうしたことから、本アクションプランの計画期間終了後においては、引き続き交流人口拡大の取組みを継続しつつ、現在策定中である嶺南地域の公共交通施策を取りまとめた福井県嶺南地域公共交通網形成計画による事業のほか、本市の北陸新幹線全線開業後のまちづくりの方向性を定める「(仮)新まちづくり構想」に掲げる『将来のまちの姿』の実現に向け、関係施策に取組んでいきます。

第2章

項目別

アクションプラン

- 1 アクションプランの方向性
- 2 取組み系統図
- 3 個別取組み



1 アクションプランの方向性

本アクションプランは、北陸新幹線の敦賀開業による交流人口の拡大を図るため、「観光の目的地化」ならびに「交通利便性の向上」を目標として、魅力の向上、情報発信、受入体制整備、基盤整備ならびに交通利便性の向上を基本方針として取組めます。

また、それぞれの基本方針に基づきアクション（取組み）を定め、そのアクションに基づいた具体的な取組み（事業）を実施します。

本市は、これまで「御食国若狭と鯖街道」「北前船寄港地・船主集落」の2つの日本遺産に認定されており、鯖街道のストーリーを軸として、歴史文化の交流のほか、鯖の養殖の事業化や食関連人材の交流など、京都をはじめとした関係都市との連携を深めながら、広域的かつ多角的な取組みを進めてきました。

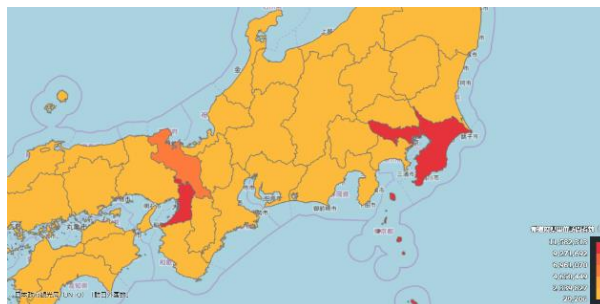
また、本市の特色である「食」や「食文化」についても古くから「御食国（みけつくに）」として京都との結びつきが強いことから、「日本遺産」および「食」といった強みを生かすためにも一体的な取組みが重要と考えています。

一方で、JNTO（日本政府観光局）の統計では、2016年のインバウンド（訪日外国人観光客）数は2,400万人以上、延べ宿泊者数7,000万人以上、観光消費額3兆7千億円以上にのぼるなど年々拡大しています。

また、インバウンドの来訪は、本市に近い関西圏と今後新たにつながる首都圏に集中しており、特に本市と交流の深い京都には毎年600万人以上のインバウンドが訪れているのが現状となっています。

これまで取組んできた、本市の強みである「食」や「食文化」ならびに「日本遺産」など、ストーリー性の高い文化・観光スポットや体験型のコンテンツは、インバウンドの興味度が非常に高いことから、農林水産省に選定された「SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）」の活用も含め、さらなる取組みの深化により、国内観光客はもとよりインバウンドの誘客拡大につなげることは十分可能と考えています。

こうしたことから、本アクションプランの取組み成果である『観光交流人口ならびに観光消費額の拡大』の実現に向け、文化・観光コンテンツのさらなる研ぎあげ、効果的な情報の発信、観光客の受入体制の整備ならびに観光関連施設や街並みの整備など、多様化する観光ニーズへの対応を図るとともに、敦賀～小浜間のアクセス向上等、交通利便性の向上に向けた取組みを含め総合的に取り組んでいきます。



赤色の区域にインバウンドが集中 —RESAS 2016年外国人訪問分析より—



2 取組み系統図

本アクションプランは、次のイメージのとおり、「北陸新幹線 敦賀開業効果の享受」を図るため、「観光の目的地化」と「交通利便性の向上」の大きな方向性を定め、それらの達成に向けた取組み項目を設定して取組みを進めます。

【取組みイメージ】

成果 ← 目標 ←

基本方針

→アクション(取組み)

北陸新幹線 敦賀開業効果の享受(交流人口拡大)

1. 観光の目的地化

① 魅力の向上 (魅せる)

日本遺産や食を代表とする地域資源の研ぎあげ、新たな魅力の創出に取組む

- 1) 食のレベルアップやブランド化、食を軸とした人材育成等の食のまちづくりの新たな展開
- 2) 日本遺産のストーリーを生かした文化・観光スポット・コンテンツの研ぎあげ
- 3) 地域資源の連携による観光コンテンツの充実と「小浜らしい周遊・滞在型観光」の創出
- 4) 買いたくなるお土産物・特産品の開発や研ぎあげと販売拠点の充実

② 情報発信 (呼びこむ)

新たなターゲットに向けて、日本遺産や食をはじめとする地域資源ならびに観光資源の魅力を発信し、呼び込む

- 1) 新たな地域・インバウンド等、ターゲットを明確にした戦略的な情報発信
- 2) 体験型観光等、地域資源を活用したモニターツアーの実施による「小浜らしい」旅行商品の開発支援

③ 受入体制整備 (もてなす)

観光案内やインバウンド対応など、訪れた観光客の利便性向上とおもてなし力の向上に取組む

- 1) 観光客流入拡大に向けた観光ガイド、案内機能の強化
- 2) W i - F i 整備やキャッシュレス化等の観光客の利便性の向上
- 3) 観光事業者や市民の「おもてなし意識」の醸成・向上

④ 基盤整備 (しつらえる)

観光案内所や街路整備など、観光のサポートや周遊観光に向けた基盤整備に取組む

- 1) インバウンド対応、2次交通の案内強化等観光案内施設の整備および機能の向上
- 2) 回遊性を高める町並みの整備および空き店舗等の活用

2. 交通利便性の向上

① 交通利便性の向上 (来やすい、まわりやすい)

二次交通の強化やJRの機能強化など、交通利便性の強化に向けた取組み

- 1) 高速バスの利用拡大と2次交通の充実による小浜市へのアクセス向上
- 2) 2次交通の機能強化等による市内観光の交通利便性の向上
- 3) JR小浜線の利便性の向上と機能強化、強靱化の検討・実施
※嶺南地域公共交通網形成計画と連携



3 個別取組み

1. 観光の目的地化

① 魅力の向上(魅せる)

アクション 1)	食のレベルアップやブランド化、食を軸とした人材育成など、食のまちづくりの新たな展開				
取組み内容	①食に関わる人材の育成・研修制度の構築による移住定住の促進 ②市内の料理人と一次産業の生産者等との協働を通じた食のレベルアップと地域内経済循環の仕組みづくり ③モデルとなる漁家レストランなど食材を生かした料理の提供・人材育成環境の整備				
主な関係課	食のまちづくり課、商工観光課、農林水産課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	① 仕組み構築	食にかかわる人材の育成・研修制度ならびに創業支援制度との連携			
	② 制度構築	市内飲食店や生産者等への普及啓発、対外発信の強化			
	③ 実施設計・工事	事業スタート			
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 A級(永久)グルメの提供を担う食と一次産業の担い手育成者数(人)				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	5 (5)	5 (10)	5 (15)	5 (20)	5 (25)
2019年先行 取組み事業	・A級(永久)グルメ継承事業(食のまちづくり課) ・御食国小浜料理マスターズの育成事業(農林水産課) ・特定エリア空き店舗対策事業(商工観光課)				



若狭小浜小鯛のささ漬け



谷田部ねぎ



アクション 2)	日本遺産のストーリーを生かした文化・観光スポット・コンテンツの研きあげ				
取組み内容	① 日本遺産に紐づけられる地域資源やストーリーを生かした、魅力ある文化・観光スポット・コンテンツの研きあげ ② ストーリー性の高いイベント開催を通じた文化・観光コンテンツの充実化 ③ 神社仏閣など日本遺産の構成遺産を生かした観光コンテンツの創出				
主な関係課	食のまちづくり課、商工観光課、農林水産課、文化課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	①	魅力ある文化・観光スポットの研きあげ			
	②	イベントの企画、実施(見直し改善含む)			
	③	掘り起こし、研きあげ			
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 市内文化財を活用した体験プラン・ツアー商品数(件)				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	6 (24)	6 (30)	6 (36)	6 (42)	6 (48)
2019年先行 取組み事業	・港町若狭小浜日本遺産フェスティバル実施事業(文化課) ・「旭座落語会」と「食」のコラボ事業(文化課) ・御食国・和食の祭典(食のまちづくり課) ・おばまプレミアム体験事業(商工観光課) ・観光おもてなしプラン充実事業(商工観光課) ・民間活力による「鯖・復活」養殖拡大プロジェクト(農林水産課)				



鯖街道 根来坂(針畑越え)



夕日とマーメイド



アクション 3)	地域資源の連携による観光コンテンツの充実と「小浜らしい周遊・滞在型観光」の創出					
取組み内容	①教育旅行の横展開、新たな体験型観光コンテンツの開発促進 ②まちの駅や三丁町など、地域特性やストーリーを生かした観光コンテンツの掘り起こしならびに研きあげ ③おばま観光局(日本版DMO)との連携による地域資源を生かした周遊・滞在型観光の開発 ④嶺南市町および近隣の府県との連携など、広域連携による観光エリアの創出					
主な関係課	食のまちづくり課、商工観光課、農林水産課、文化課					
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
	①	教育旅行の横展開や新たな体験メニュー開発に向けた調整、実施				
	②	観光スポット、体験コンテンツの掘り起こし、研きあげ				
	③	周遊モデルルートの策定				
	④	関係者調整	広域連携イベントの推進			
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 観光交流人口(万人)					
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
	1.8 (186.6)	2.2 (188.8)	2.3 (191.1)	3.1 (194.2)	5.8 (200.0)	
2019年先行 取組み事業	<ul style="list-style-type: none"> ・特定エリア空き店舗対策事業(商工観光課) ・海の駅賑わい創出事業(食のまちづくり課) ・「旭座落語会」と「小浜の食」のコラボ事業(文化課) ・おばま観光プラットフォーム活性化事業(商工観光課) ・おばまプレミアム体験事業(商工観光課) ・観光おもてなしプラン充実事業(商工観光課) 					

※施策例中の斜体部分は再掲事業です



漁業集落での教育旅行



漁師体験(わかめ漁)

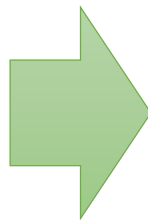


アクション 4)	買いたくなるお土産物・特産品の開発や研ぎあげと販売拠点の充実				
取組み内容	①既存のお土産品のパッケージやデザインのブラッシュアップに向けた研修ならびに刷新支援 ②新たな特産品やお土産品の開発に向けた支援 ③空き店舗等を活用した特産品等の販売拠点の充実と販路拡大				
主な関係課	商工観光課、農林水産課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	① 研修実施	パッケージのブラッシュアップ支援			
		② 新たなお土産品等の開発支援			
		③ 販売拠点および販路の拡大に向けた支援等			
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 ブラッシュアップしたお土産商品数(個)				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	0 (0)	3 (3)	3 (6)	3 (9)	3 (12)
2019年先行 取組み事業	・「買いたくなるお土産」デザイン塾(開催)事業(商工観光課) ・小浜市6次化等ビジネス人材育成事業(農林水産課) ・特定エリア空き店舗対策事業(商工観光課)				

※施策例中の斜体部分は再掲事業です



創業百年の塩羊羹
特に特徴もない羊羹パッケージ



児島ジーンズストリートに合わせたパッケージ&名称変更
「ジーンズ塩羊羹」として販売し、贈答用も含め売上増加

お土産パッケージデザインの変更例



1. 観光の目的地化

②情報発信(呼びこむ)

アクション 1)	新たな地域・インバウンド等、ターゲットを明確にした戦略的な情報発信				
取組み内容	①新たな地域やターゲットに向けた戦略的な情報発信 ②既存の観光情報等の整理・一元化 ③インバウンドに向けた情報発信の充実				
主な関係課	商工観光課、農林水産課、文化課、市民協働課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	①	発信方法等の整理	戦略的な情報発信の実施		
	②	情報の分析調査	情報の整理・一元化		
	③			戦略的な情報発信の実施	
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 観光協会公式SNSにおけるファン数(リーチ数)の拡大率(%)				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	5 (5)	5 (10)	5 (15)	5 (20)	5 (25)
2019年先行 取組み事業	・Welcome!おばま観光活性化プロジェクト(商工観光課)				



若狭おばま観光協会の公式ホームページ



観光関連パンフレットのの一部



アクション 2)	体験型観光等、地域資源を活用したモニターツアーの実施による「小浜らしい」旅行商品の開発支援				
取組み内容	① SNSのインフルエンサーや旅行エージェント等を対象としたモニターツアーの実施 ② モニターツアーの知見を生かした「小浜らしい」旅行商品の開発支援				
主な関係課	商工観光課、文化課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	① ニーズ調査・モニターツアーの企画、実施			② 旅行商品の開発支援	
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 ツアーの年間開催件数 (件)				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	5 (5)	5 (10)	5 (15)	5 (20)	5 (25)
2019年先行 取組み事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ Welcome!おばま観光活性化プロジェクト (商工観光課) ・ おばまプレミアム体験事業 (商工観光課) ・ 海外顧客開拓プロモーション事業 (商工観光課) ・ 「旭座落語会」と「小浜の食」のコラボ事業 (文化課) 				

※施策例中の斜体部分は再掲事業です



三味線・芸妓体験



インバウンドをターゲットとした宿泊施設



1. 観光の目的地化

③受入体制整備(もてなす)

アクション 1)	観光客流入拡大に向けた観光ガイド、案内機能の強化				
取組み内容	①市内観光施設、標識案内等の多言語表記の整備 ②インバウンド強化に向けた日本政府観光局（JNTO）カテゴリー2に準拠した観光ガイド配置や観光案内所の整備				
主な関係課	商工観光課、都市整備課、文化課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 インフォメーションセンター年間利用者数（人）				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	100 (13,100)	200 (13,300)	300 (13,600)	400 (14,000)	500 (14,500)
2019年先行 取組み事業	・（仮称）小浜駅前インフォメーションセンター整備事業（商工観光課）				



若狭の語り部の観光ガイド活動



文字の損傷等が見られる案内標識



アクション 2)	W i - F i 整備やキャッシュレス化等の観光客の利便性向上				
取組み内容	①市内観光関連施設のW i - F i 整備やキャッシュレス化の導入支援・啓発 ②案内所や観光関係施設へのコインロッカー設置や手荷物預かり・配送サービスの検討および実施 ③飲食店メニューの多言語化や動画ツールの活用など、インバウンド対応の充実強化				
主な関係課	商工観光課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	①	事業実施			
	②	関係者調整	試行	サービス開始	
③	調査・実施計画		事業実施		
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 外国人宿泊者数 (人)				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	300 (4,000)	300 (4,300)	300 (4,600)	300 (4,900)	300 (5,200)
2019年先行 取組み事業	・ (仮称) 小浜駅前インフォメーションセンター整備事業 (商工観光課)				

※施策例中の斜体部分は再掲事業です



手荷物一時預かりサービス(尾道市)



ICカード等キャッシュレス決済イメージ



<p>アクション 3)</p>	<p>観光事業者や市民の「おもてなし意識」の醸成・向上</p>				
<p>取組み内容</p>	<p>①観光事業者・市民のおもてなし意識の醸成および向上支援 ②観光に特化した英会話教室やマナー教室など市民のコミュニケーションスキルの向上支援 ③各種スポーツ大会や合宿の開催支援</p>				
<p>主な関係課</p>	<p>商工観光課、農林水産課、生涯学習スポーツ課</p>				
<p>実施時期</p>	<p>2019年</p>	<p>2020年</p>	<p>2021年</p>	<p>2022年</p>	<p>2023年</p>
	<p>①</p>	<p>研修会企画、実施</p>		<p>フォローアップ</p>	
	<p>②</p>	<p>カリキュラムの作成、実施</p>		<p>フォローアップ</p>	
	<p>③</p>	<p>制度検討</p>	<p>実施・啓発(誘致開始)</p>		
<p>数値目標 増加数 ()内は累計</p>	<p>【設定】 おもてなし向上に向けた各種研修会等への参加者数(人)</p>				
	<p>2019年</p>	<p>2020年</p>	<p>2021年</p>	<p>2022年</p>	<p>2023年</p>
	<p>0 (50)</p>	<p>50 (100)</p>	<p>50 (150)</p>	<p>50 (200)</p>	<p>50 (250)</p>
<p>2019年先行 取組み事業</p>	<p>・学生グループ顧客促進事業(商工観光課) 高校・大学等の合宿への補助(既存事業)</p>				



各種おもてなし向上に向けた研修会



各種スポーツ合宿イメージ



1. 観光の目的地化

④基盤整備(しつらえる)

アクション 1)	インバウンド対応、2次交通の案内強化等観光案内施設の整備および機能の向上				
取組み内容	① レンタサイクルやレンタカーなど2次交通の案内機能を有した観光案内施設の整備 ② 日本遺産のガイダンス機能を有した案内施設の整備 ③ インバウンドに対応した標識案内等の整備 ④ エンゼルラインなど、映える観光スポットの整備				
主な関係課	商工観光課、都市整備課、文化課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	① 整備 →	供用開始			
	② 整備 →	供用開始			
	③	整備計画策定 →	整備 →		
	④	整備・供用			
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 レンタサイクルの年間のべ貸出数(台)				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	20 (1,400)	50 (1,450)	50 (1,500)	50 (1,550)	50 (1,600)
2019年先行 取組み事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ (仮称) 小浜駅前インフォメーションセンター整備事業(商工観光課) ・ (仮称) 鯖街道MUSEUM整備事業(文化課/都市整備課) 				

※施策例中の斜体部分は再掲事業です



(仮称)小浜駅前インフォメーションセンターイメージ



公衆トイレにトリックアート(倉敷市)



アクション 2)	回遊性を高める町並みの整備および空き店舗等の活用				
取組み内容	①小浜縦貫線や三丁町などの街路整備の促進 ②小浜西組や遠敷丹後街道などの町並みの保存・活用 ③市内の公衆トイレ等の公共観光設備の整理、更新 ④空き店舗等を活用した魅力ある店舗・宿泊施設などの整備促進				
主な関係課	商工観光課、都市整備課、文化課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	① 整備促進 ② 町並みの保存ならびに活用 ③ 実施計画策定 → 整備 ④ 補助事業 → 制度見直しながら継続				
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 三丁町エリアにおける古民家宿の年間宿泊者数（人）				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
50 (700) 50 (750) 50 (800) 50 (850) 50 (900)					
2019年先行 取組み事業	・ 特定エリア空き店舗対策事業（商工観光課） ・ 都市再生整備計画事業（小浜まちなか地区）（都市整備課） ・ 社会資本整備（街路：小浜縦貫線）（都市整備課） ・ 遠敷地区伝統的民家群保存活用事業（文化課）				

※施策例中の斜体部分は再掲事業です

街路整備中、電線地中埋設、融雪装置、石畳調舗装等



三丁町整備風景



遠敷地区の伝統的民家群



2. 交通利便性の向上 ①交通利便性の向上(来やすい、めぐりやすい)

アクション 1)	高速バスの利用拡大と2次交通の充実による小浜市へのアクセス向上				
取組み内容	①敦賀駅～小浜駅を結ぶ直行バスの運行による本市へのアクセスの向上 ②道の駅若狭おばまへのバスロータリー整備による交通結節点機能の強化と高速バスの利用拡大 ③コミュニティバスなどの市内2次交通の充実強化				
主な関係課	北陸新幹線・総合交通推進課、商工観光課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	② 整備	① 関係者調整 供用開始(利用拡大に向けた活動等実施)	③ 検討・調整	試行、実施	
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 直行バス利用者数(人)				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	《積算根拠》 1日3便往復 45席	22年度は 最終土日 乗車率75%	23年度は 毎週土日 乗車率50%	400 (400)	7,700 (8,100)
2019年先行 取組み事業	・重点「道の駅」整備事業(都市整備課)				



整備中のバスターミナル



若狭ライナーバス



アクション 2)	2次交通の機能強化等による市内観光の交通利便性の向上				
取組み内容	①貸切観光タクシーの充実に向けた支援 ②市内名所や観光エリアを通るバス運行の検討やタクシー、レンタカーの活用に向けた調査、検討 ③JR駅で乗り捨てが可能なレンタカーやレンタサイクルの実現に向けた検討ならびに活用案の検討 ④コミュニティバスの経路探索システムの提供				
主な関係課	商工観光課、北陸新幹線・総合交通推進課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
		② 路線調査、検討	① 実施・啓発 調整、協議	実施・啓発 新ルート運行開始	実施・啓発
		③ 事業検討	試行	実施	
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 レンタサイクルの年間のべ貸出台数(台)				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	20 (1,400)	50 (1,450)	50 (1,500)	50 (1,550)	50 (1,600)
2019年先行 取組み事業	・(仮称)小浜駅前インフォメーションセンター整備事業(商工観光課)				

※施策例中の斜体部分は再掲事業です



観光タクシーイメージ



自転車での周遊イメージ



アクション 3)	JR小浜線の利便性の向上と機能強化、強靱化の検討・実施				
取組み内容	① JR小浜線各駅へのICカード導入に向けた協議、検討 ② JR小浜線車両への自転車乗り入れ（サイクルトレイン）の検討ならびに実施 ③ JR小浜線の利便性向上と強化に向けた検討 ④ JR小浜線を活用した“乗りたくなる”インパクトのあるイベント企画等の検討				
主な関係課	北陸新幹線・総合交通推進課				
実施時期	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	① 検討	実施に向けた要望、検討、協議			
	② 検討協議	試行		導入	
	③ 検討	実施に向けた要望、検討、協議			
	④ 検討	実施に向けた要望、検討、協議			
数値目標 増加数 ()内は累計	【設定】 一日当たりのJR小浜線乗車人員数（西敦賀駅～青郷駅）（人）				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	0 (4,000)	40 (4,040)	40 (4,080)	200 (4,280)	200 (4,480)
2019年先行 取組み事業					



鉄道系ICカード読み取り機



サイクルトレイン(イメージ)

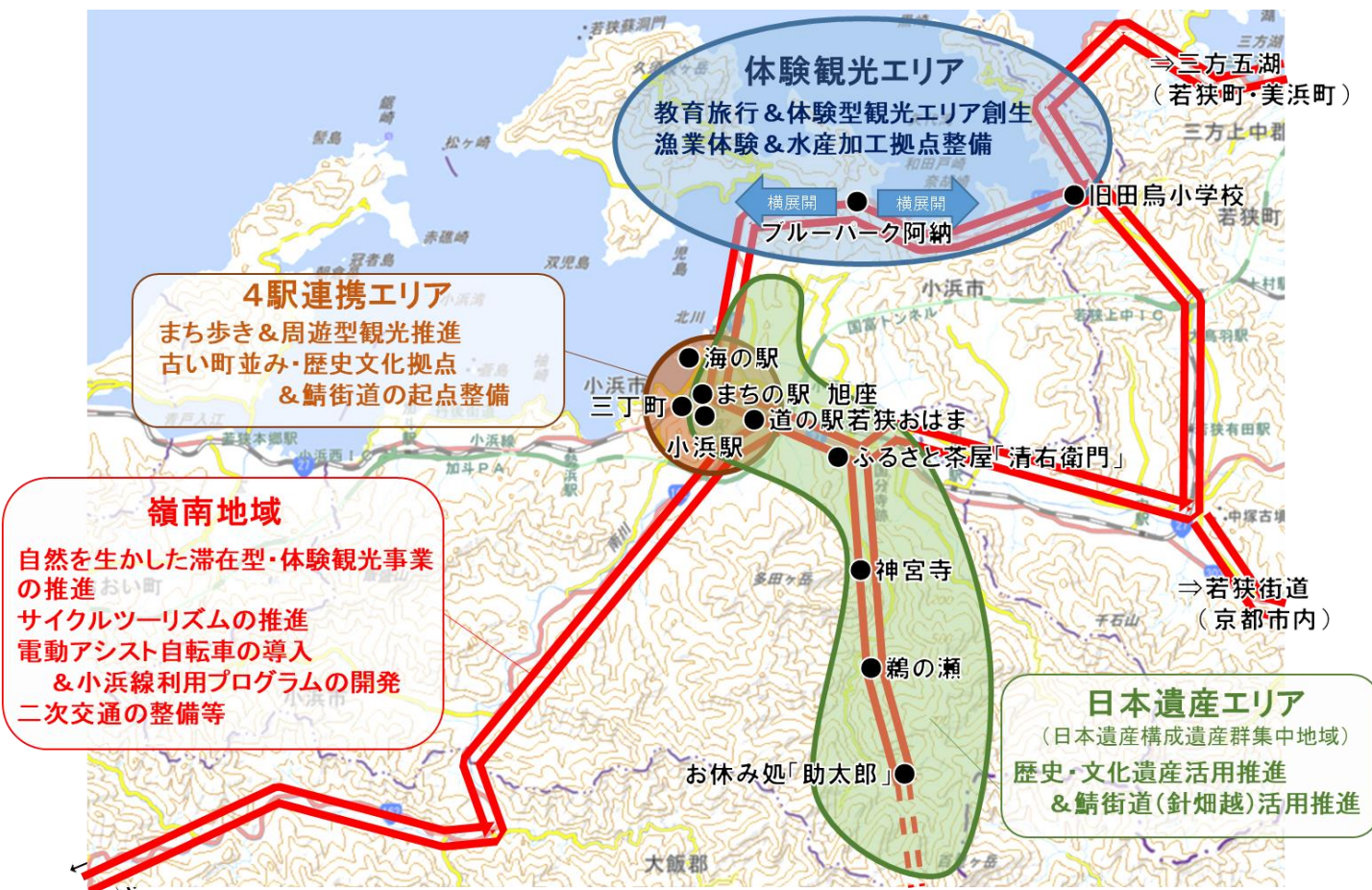
第3章

エリア別 アクションプラン

- 1 エリア設定の目的
- 2 4駅連携エリア
- 3 体験観光エリア
- 4 日本遺産エリア
- 5 嶺南エリア



1 エリア設定の目的



【エリア設定について】

北陸新幹線敦賀開業まで4年を切った状況において、より高い取組み成果ならびに効果を得るためには、本市の強みをさらに伸ばし、“小浜らしさ”の情報発信と体験ができる環境を準備し、確実な誘客に結び付ける必要があります。

そうしたことから、本アクションプランでは、「4駅連携エリア」「体験観光エリア」「日本遺産エリア」の3エリアを集中実施エリアに設定するとともに、敦賀市以西の各市町との連携が嶺南地域と設定し、それぞれのエリアが持つ強みを引き出し、エリア間を連携させ、市全体の周遊促進に結び付けることにより、本アクションプランの目標達成をめざします。



【推進エリアの概要】

○4駅連携エリア

小浜駅、まちの駅、海の駅、道の駅の4駅を範囲とする当該エリアは、小浜市街地を中心に、まち歩き観光スポットとして展開してきました。

このエリアは、小浜西組（小浜西部地区）では、三丁町など着物姿が似合う京風の古い町並みを有しているほか、中心部のまちの駅周辺には鯖街道の起点があり、また魚介類が集積する海の駅など、文化や歴史、食など本市の強みが集中しています。

このエリアが持つ強みを効果的に情報発信することにより、日本の文化に興味を持つ国内観光客はもとより、京都や大阪の次を探すインバウンドが“行ってみたい地”として期待できるエリアです。



○体験観光エリア

主に内外海地区を中心とする当該エリアでは、ブルーパーク阿納を中心とした教育旅行の誘致のほか、集落には漁家民宿が集積しています。また、漁業集落でもあるため、漁師体験などが体験可能なエリアです。



2016年に策定した内外海地区活性化計画をもとに、漁師体験など体験メニューの発掘とブラッシュアップのほか、漁家民宿の次世代顧客層を狙ったアウトドアアクティビティや民宿のアメニティ向上とを組み合わせることにより、“ここでしかできない”滞在型観光が期待できるエリアです。

○日本遺産エリア

本市は、「御食国若狭と鯖街道」と「北前船寄港地・船主集落」の2つの日本遺産に認定されています。

これら日本遺産の構成遺産群は、小浜市街地西部地域から雲浜や西津地区、また松永・遠敷地域まで幅広く点在していますが、すべて小浜固有の歴史や文化が色濃く残されたものです。



こうした地域資源を生かした“小浜らしい”体験型のツアーを造成するほか、SNSなどを通じた情報発信を行うことにより、国内はもとより日本の文化を楽しむインバウンドにも刺さるコンテンツが期待できるエリアです。



2 4駅連携エリア



【当該エリアの取組方向性】

- ① 食や歴史文化など“強み”の研ぎあげと情報発信
- ② インバウンド対応等、観光客の受け入れ体制の強化
- ③ まちの駅周辺の街路整備など町並み整備および魅力ある店舗の集積
- ④ レンタカーやレンタサイクルの拡充など二次交通の利便性向上

	2019	2020	2021	2022	開業 敦賀	2023～
1. 観光の目的地化 ① 魅力の向上（魅せる）	1) 食のレベルアップやブランド化、食を軸とした人材育成など、食のまちづくりの新たな展開 ① 食にかかわる人材の育成・研修制度の構築による移住定住の促進 ② 市内の料理人と一次産業の生産者等との協働を通じた食のレベルアップと地域内経済循環の仕組みづくり ③ モデルとなる漁家レストランなど食材を生かした料理の提供・人材育成環境の整備					
	2) 日本遺産のストーリーを生かした文化・観光スポット・コンテンツの研ぎあげ ① 日本遺産に紐づけられる地域資源やストーリーを生かした、魅力ある文化・観光スポットやコンテンツの研ぎあげ ② ストーリー性の高いイベント開催を通じた文化・観光コンテンツの充実化 ③ 神社仏閣など日本遺産の構成遺産を生かした観光コンテンツの創出					
	3) 地域資源の連携による観光コンテンツの充実と「小浜らしい周遊・滞在型観光」の創出 ① 教育旅行の横展開、新たな体験型コンテンツの開発促進 ② まちの駅や三丁町など、地域特性やストーリーを生かした観光コンテンツの掘り起こしならびに研ぎあげ ③ おばま観光局(日本版DMO)との連携による地域資源を生かした周遊・滞在型観光の開発 ④ 嶺南市町および近隣の府県との連携など、広域連携による観光エリアの創出					
	4) 買いたくなるお土産物・特産品の開発や研ぎあげと販売拠点の充実 ① 既存のお土産物のパッケージやデザインのブラッシュアップに向けた研修ならびに刷新支援 ② 新たな特産品やお土産品の開発に向けた支援 ③ 空き店舗等を活用した特産品等の販売拠点の充実と販路拡大					



	2019	2020	2021	2022	開業 敦賀	2023～
1. 観光の目的地的化	② 情報発信（呼びこむ）	1) 新たな地域・インバウンド等、ターゲットを明確にした戦略的な情報発信 ① 新たな地域やターゲットに向けた戦略的な情報発信 ② 既存の観光情報等の整理・一元化 ③ インバウンドに向けた情報発信の充実				
	③ 受入体制整備（もてなす）	1) 観光客流入拡大に向けた観光ガイド、案内機能の強化 ① 市内観光施設、標識案内等の多言語表記の整備 ② インバウンド強化に向けた日本政府観光局（JNTO）カテゴリ-2に準拠した観光ガイド配置や観光案内所の整備				
	④ 基盤整備（しつらえる）	1) インバウンド対応、2次交通の案内強化等観光案内施設の整備および機能の向上 ① レンタサイクルやレンタカーなど2次交通の案内機能を有した観光案内施設の整備 ② 日本遺産のガイダンス機能を有した案内施設の整備 ③ インバウンドに対応した標識案内等の整備 ④ エンゼルラインなど、映える観光スポットの整備				
		2) 回遊性を高める町並みの整備および空き店舗等の活用 ① 小浜縦貫線や三丁町などの街路整備の促進 ② 小浜西組や遠敷丹後街道などの町並みの保存・活用 ③ 市内の公衆トイレ等の公共観光設備の整理、更新 ④ 空き店舗等を活用した魅力ある店舗・宿泊施設などの整備促進				
	2) 体験型観光等、地域資源を活用したモニターツアーの実施による「小浜らしい」旅行商品の開発支援 ① SNSのインフルエンサーや旅行エージェント等を対象としたモニターツアーの実施 ② モニターツアーの知見を生かした「小浜らしい」旅行商品の開発支援					



鯖街道MUSEUM外観イメージ



鯖街道MUSEUM周辺イメージ



3 体験観光エリア



【当該エリアの取組方向性】

- ①海産物や漁業体験など自然を生かした観光コンテンツの強化および情報発信
- ②漁家民宿のインバウンド対応等、観光客の受け入れ体制の強化
- ③二次交通の整備など、市街地からのアクセス向上
- ④手荷物預かりや配送などの周遊利便性向上

	2019	2020	2021	2022	開業 敦賀	2023～
1. 観光の目的地的化 ① 魅力の向上 (魅せる)	1)食のレベルアップやブランド化、食を軸とした人材育成など、食のまちづくりの新たな展開 ①食にかかわる人材の育成・研修制度の構築による移住定住の促進 ②市内の料理人と一次産業の生産者等との協働を通じた食のレベルアップと地域内経済循環の仕組みづくり ③モデルとなる漁家レストランなど食材を生かした料理の提供・人材育成環境の整備					
	2)日本遺産のストーリーを生かした文化・観光スポット・コンテンツの研きあげ ①日本遺産に紐づけられる地域資源やストーリーを生かした、魅力ある文化・観光スポットやコンテンツの研きあげ ②ストーリー性の高いイベント開催を通じた文化・観光コンテンツの充実化 ③神社仏閣など日本遺産の構成遺産を生かした観光コンテンツの創出					
	3)地域資源の連携による観光コンテンツの充実と「小浜らしい周遊・滞在型観光」の創出 ①教育旅行の横展開、新たな体験型コンテンツの開発促進 ②まちの駅や三丁町など、地域特性やストーリーを生かした観光コンテンツの掘り起こしならびに研きあげ ③おばま観光局(日本版DMO)との連携による地域資源を生かした周遊・滞在型観光の開発 ④嶺南市町および近隣の府県との連携など、広域連携による観光エリアの創出					
	4)買いたくなるお土産物・特産品の開発や研きあげと販売拠点の充実 ①既存のお土産物のパッケージやデザインのブラッシュアップに向けた研修ならびに刷新支援 ②新たな特産品やお土産品の開発に向けた支援 ③空き店舗等を活用した特産品等の販売拠点の充実と販路拡大					



	2019	2020	2021	2022	開業 敦賀	2023～	
1. 観光の目的地的化	② 情報発信 (呼びこむ)	1)新たな地域・インバウンド等、ターゲットを明確にした戦略的な情報発信 ①新たな地域やターゲットに向けた戦略的な情報発信 ②既存の観光情報等の整理・一元化 ③インバウンドに向けた情報発信の充実					
		2)体験型観光等、地域資源を活用したモニターツアーの実施による「小浜らしい」旅行商品の開発支援 ①SNSのインフルエンサーや旅行エージェント等を対象としたモニターツアーの実施 ②モニターツアーの知見を生かした「小浜らしい」旅行商品の開発支援					
		③ 受入体制整備 (もてなす)	1)観光客流入拡大に向けた観光ガイド、案内機能の強化 ①市内観光施設、標識案内等の多言語表記の整備 ②インバウンド強化に向けた日本政府観光局(JNTO)カテゴリー2に準拠した観光ガイド配置や観光案内所の整備				
			2)Wi-Fi整備やキャッシュレス化等の観光客の利便性向上 ①市内観光関連施設のWi-Fi整備やキャッシュレス化の導入支援 ②案内所や観光関係施設へのコインロッカー設置や手荷物預かり・配送サービスの検討および実施 ③飲食店メニューの多言語化や動画ツールの活用など、インバウンド対応の充実強化				
④ 基盤整備 (しつらえる)	3)観光事業者や市民の「おもてなし意識」の醸成・向上 ①観光事業者・市民のおもてなし意識の醸成および向上支援 ②観光に特化した英会話教室やマナー教室など市民のコミュニケーションスキルの向上支援 ③各種スポーツ大会や合宿の開催支援						
	1)インバウンド対応、2次交通の案内強化等観光案内施設の整備および機能の向上 ①レンタサイクルやレンタカーなど2次交通の案内機能を有した観光案内施設の整備 ②日本遺産のガイダンス機能を有した案内施設の整備 ③インバウンドに対応した標識案内等の整備 ④エンゼルラインなど、映える観光スポットの整備						
2)回遊性を高める町並みの整備および空き店舗等の活用 ①小浜縦貫線や三丁町などの街路整備の促進 ②小浜西組や遠敷丹後街道などの町並みの保存・活用 ③市内の公衆トイレ等の公共観光設備の整理、更新 ④空き店舗等を活用した魅力ある店舗・宿泊施設などの整備促進							



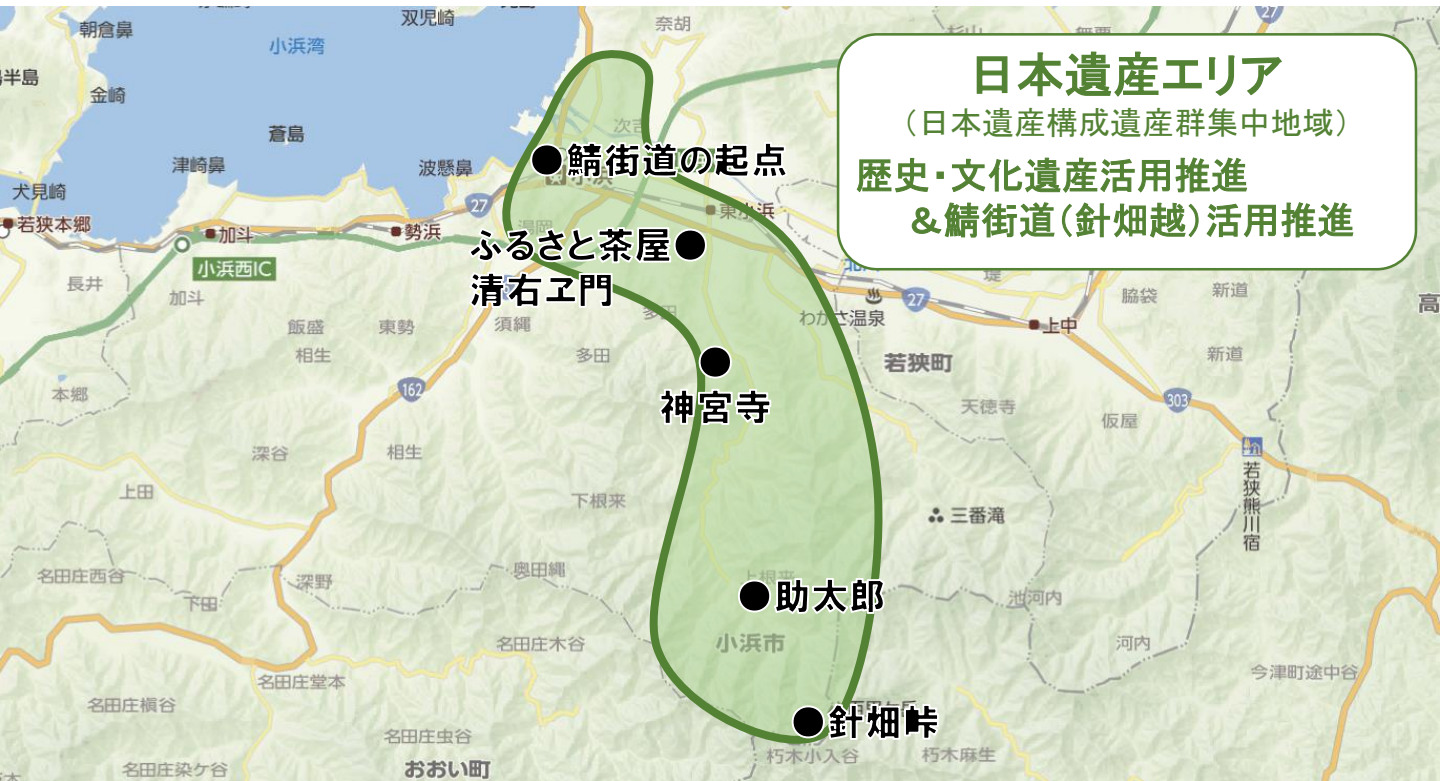
魚捌き体験



シーカヤック体験(阿納)



4 日本遺産エリア



日本遺産エリア
(日本遺産構成遺産群集中地域)
**歴史・文化遺産活用推進
&鯖街道(針畑越)活用推進**

【当該エリアの取組方向性】

- ① 日本遺産構成遺産をはじめとする歴史文化の情報発信強化
- ② 日本遺産構成遺産を活用した体験メニューなど、観光コンテンツの開発
- ③ 各日本遺産推進協議会との連携による情報発信や事業の展開
- ④ 市街地からのアクセス向上ならびに手荷物預かりなどの周遊利便性向上

	2019	2020	2021	2022	開業 敦賀	2023~
1. 観光の目的 地化 (魅せる)	① 魅力の向上					
	1) 食のレベルアップやブランド化、食を軸とした人材育成など、食のまちづくりの新たな展開 ① 食にかかわる人材の育成・研修制度の構築による移住定住の促進 ② 市内の料理人と一次産業の生産者等との協働を通じた食のレベルアップと地域内経済循環の仕組みづくり ③ モデルとなる漁家レストランなど食材を生かした料理の提供・人材育成環境の整備					
	2) 日本遺産のストーリーを生かした文化・観光スポット・コンテンツの研きあげ ① 日本遺産に紐づけられる地域資源やストーリーを生かした、魅力ある文化・観光スポットやコンテンツの研きあげ ② ストーリー性の高いイベント開催を通じた文化・観光コンテンツの充実化 ③ 神社仏閣など日本遺産の構成遺産を生かした観光コンテンツの創出					
	3) 地域資源の連携による観光コンテンツの充実と「小浜らしい周遊・滞在型観光」の創出 ① 教育旅行の横展開、新たな体験型コンテンツの開発促進 ② まちの駅や三丁町など、地域特性やストーリーを生かした観光コンテンツの掘り起こしならびに研きあげ ③ おばま観光局(日本版DMO)との連携による地域資源を生かした周遊・滞在型観光の開発 ④ 嶺南市町および近隣の府県との連携など、広域連携による観光エリアの創出					
4) 買いたくなるお土産物・特産品の開発や研きあげと販売拠点の充実 ① 既存のお土産物のパッケージやデザインのブラッシュアップに向けた研修ならびに刷新支援 ② 新たな特産品やお土産品の開発に向けた支援 ③ 空き店舗等を活用した特産品等の販売拠点の充実と販路拡大						



	2019	2020	2021	2022	開業 敦賀	2023～	
1. 観光の目的地的化	② 情報発信 (呼びこむ)	1)新たな地域・インバウンド等、ターゲットを明確にした戦略的な情報発信 ①新たな地域やターゲットに向けた戦略的な情報発信 ②既存の観光情報等の整理・一元化 ③インバウンドに向けた情報発信の充実					
		2)体験型観光等、地域資源を活用したモニターツアーの実施による「小浜らしい」旅行商品の開発支援 ①SNSのインフルエンサーや旅行エージェント等を対象としたモニターツアーの実施 ②モニターツアーの知見を生かした「小浜らしい」旅行商品の開発支援					
		③ 受入体制整備 (もてなす)	1)観光客流入拡大に向けた観光ガイド、案内機能の強化 ①市内観光施設、標識案内等の多言語表記の整備 ②インバウンド強化に向けた日本政府観光局(JNTO)カテゴリ2に準拠した観光ガイド配置や観光案内所の整備				
			2)Wi-Fi整備やキャッシュレス化等の観光客の利便性向上 ①市内観光関連施設のWi-Fi整備やキャッシュレス化の導入支援 ②案内所や観光関係施設へのコインロッカー設置や手荷物預かり・配送サービスの検討および実施 ③飲食店メニューの多言語化や動画ツールの活用など、インバウンド対応の充実強化				
④ 基盤整備 (しつらえる)	3)観光事業者や市民の「おもてなし意識」の醸成・向上 ①観光事業者・市民のおもてなし意識の醸成および向上支援 ②観光に特化した英会話教室やマナー教室など市民のコミュニケーションスキルの向上支援 ③各種スポーツ大会や合宿の開催支援						
	1)インバウンド対応、2次交通の案内強化等観光案内施設の整備および機能の向上 ①レンタサイクルやレンタカーなど2次交通の案内機能を有した観光案内施設の整備 ②日本遺産のガイド機能等を有した案内施設の整備 ③インバウンドに対応した標識案内等の整備 ④エンゼルラインなど、映える観光スポットの整備						
2)回遊性を高める町並みの整備および空き店舗等の活用 ①小浜縦貫線や三丁町などの街路整備の促進 ②小浜西組や遠敷丹後街道などの町並みの保存・活用 ③市内の公衆トイレ等の公共観光設備の整理、更新 ④空き店舗等を活用した魅力ある店舗・宿泊施設などの整備促進							



小浜西組重伝建地区改修物件見学ツアー



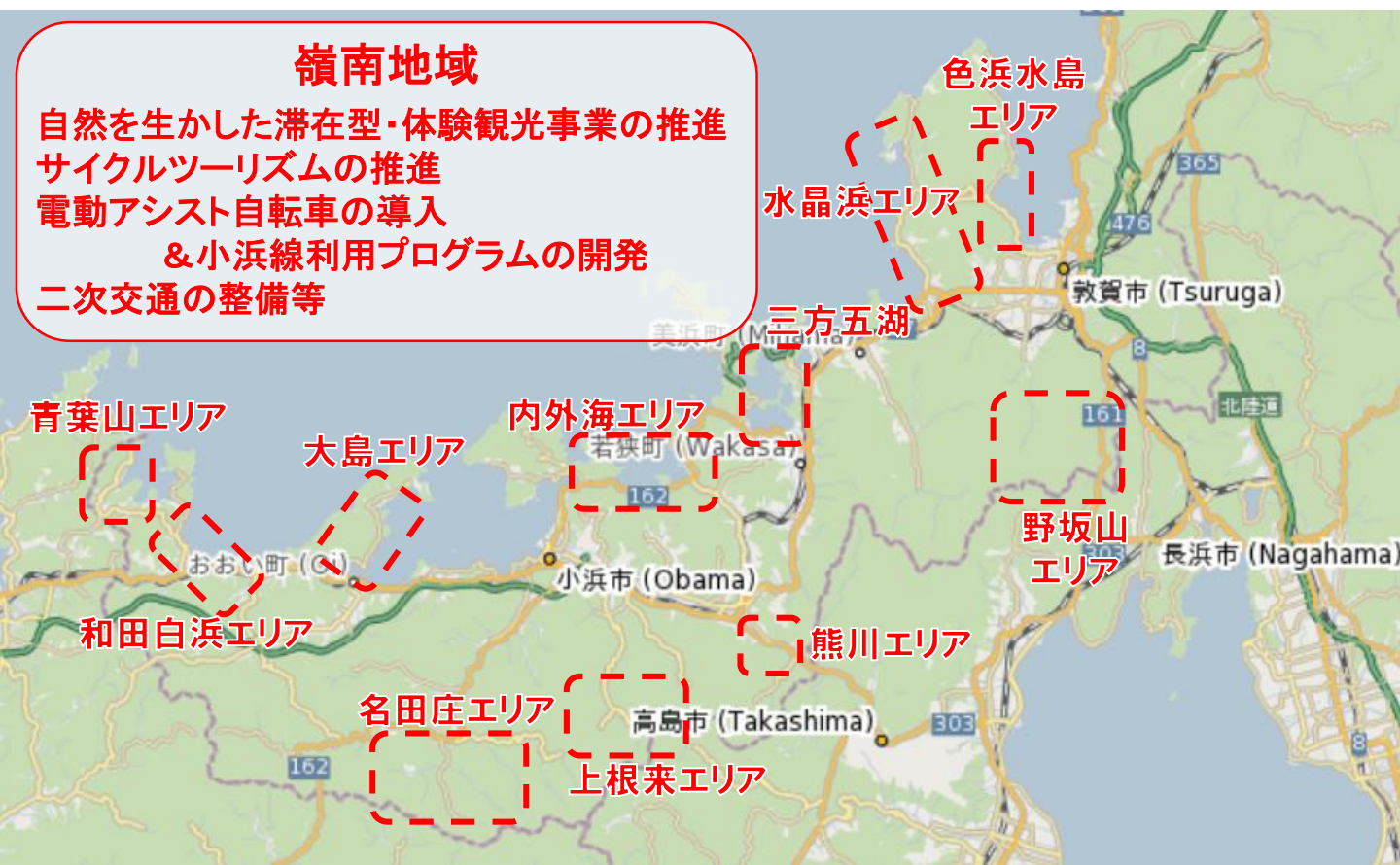
明通寺での結婚式



5 嶺南エリア

嶺南地域

自然を生かした滞在型・体験観光事業の推進
 サイクルツーリズムの推進
 電動アシスト自転車の導入
 & 小浜線利用プログラムの開発
 二次交通の整備等



【当該エリアの取組方向性】

- ① 各エリア内の公共交通のほか、レンタカー等二次交通の充実化による周遊促進
- ② 各エリア内における地域性を生かした体験型観光メニューの創出、連携発信
- ③ J R小浜線等を活用した周遊観光の創出

マリナクティビティ



文化体験・ものづくり



北陸新幹線小浜・京都ルート

みんなの力で**早期開業!!**

— 京は遠ても19分 —

